

Humid subtropical climate

地理などで学習したことがあると思いますが、我が国の気候を、代表的な気候区分であるケッペンの気候区分で表すと、おおよそは「温暖湿潤気候」か「亜寒帯（冷帯）湿潤気候」となります。

前橋市は温帯に属しています。温帯というとは年間を通して温暖な気候の地域のことであり、英語でも、Temperate climates や temperate zone と表現します。temperate には、「温和な、温暖な」という意味や「度を越さない、控えめな」という意味があるようです。

「度を越さない…」、このところの気温は、この言葉が当てはまりません。ちなみに、「温暖湿潤気候」は、Humid subtropical climate です。“亜熱帯”とも表現されるのです。temperate humid climate という場合もあるようですが、humid な夏の暑さが気候の特徴なのです。

近年、この傾向は強まっているようです。右上の表は、前橋市における8月一箇月間の日平均気温の平均、最高気温の平均、最低気温の平均を示したものです。私が高校生だったときの3年間と、去年と今年（※20日まで）を比べてみました。1976年と77年は8月の平均気温は約24℃で、最高気温の平均も30℃を下回っていました。しかし、78年は気温がとても上がりました。実はこの年は、昭和時代では有数の猛暑年となった記録的な年なのです。太平洋高気圧の勢力が非常に強く、快晴状態が続き、猛暑に加え梅雨明け後の降水量が少なく水不足も深刻化しました。この年の8月3日には、山形県酒田市で40.1℃という、日本の公式な気象観測所で初めて40℃以上の気温を観測したのです。ただ、数字をよく見ると、最低気温の上昇幅は、最高気温のそれに比べて小さいことが分かります。最高気温の平均は前年に比べて約6℃上昇したのに対し、最低気温は2℃の上昇でした。この年の最高気温の平均は、昨年よりも高いのですが、最低気温の平均は昨年よりも2℃低いのです。最近の夏は、夜になってもなかなか気温が下がらない傾向にあり、いわゆる熱帯夜が増えているのです（実際の熱帯の夜はもっと過ごしやすいと思いますが…）。これからの時代においても、『徒然草』の第55段にあるように「家の作りやうは、夏をむねとすべし」なのかもしれません。

表のとおり、今年の8月は記録的な暑さです。始業式以後は、猛暑の峠を少しだけ越えそうで

すが、湿度が高い（humid）状態は続きそうですので、注意は怠らないようにしましょう。

前橋市の8月（単位：℃）

年	日平均 気温	最高気温 の平均	最低気温 の平均
1976(S51)	23.9	29.1	20.1
1977(S52)	23.9	27.8	20.8
1978(S53)	27.7	33.7	22.8
2019(R 1)	28.4	33.3	24.8
2020(R 2)	29.7	35.4	25.0

※

飛躍の二学期に！

湿潤の「潤」から「さんずい」を取ると「閏（うるう）」。今年は閏年でしたね。1年を1日増やして、暦のズレを調整し（潤わせ）ています。本来であれば、オリンピックの熱気が冷めやらないなかで、パラリンピックの開会を間近に控えていたところですが、残念でなりません。

一方、閏年はアメリカの大統領選挙の年でもあります。民主党、共和党の党大会に関わるニュースが頻繁に報じられています。今年は、新型コロナウイルスの感染防止のため、オンラインで行われたり、規模が大幅に縮小されたりするなど、過去に例のない大会になっているようです。「11月の第1月曜日の次の火曜日」が投票日ですから、今年の場合は、11月3日。現職の共和党トランプ大統領と、民主党のバイデン前副大統領による、大統領の座をかけた選挙戦が繰り広げられていきます。

This year is a leap year which also means it is a Presidential election year.

閏年を英語では、leap year というのですね。「飛躍」の二学期にしてください！

県の警戒度2に引き上げ

新型コロナウイルスの新規感染者が増えています。県は15日から、新型コロナウイルス感染症に対する独自指針に基づく警戒度を、これまでの「1」から「2」に引き上げました。ただ、感染防止策が普及していることなどを踏まえ、従来の警戒度の規制内容が見直されましたので、現段階では県立高校における通常登校や部活動等については、変更はありません。しかし、「県内でも市中感染が広がりつつある」状況ですので、これまで同様、毎日の検温、こまめな手洗い、換気、消毒などの感染防止策の徹底をお願いいたします。